

米沢の有機EL照明研

大型商業施設に初納入

本格受注へ 光差す

米沢市内の企業などをつくる有機EL照明実用化研究会が製作した棚照明と卓上スタンドが、イオンモール幕張新都心(千葉市)の紳士服売り場と化粧品コーナーに試験設置された。同会が大型商業施設に製品を納入するのは初めて。自然光に近く、優しい有機ELの光をアピールするとともに、買い物客や店員の声を聞いて改良を加え、国内外に展開する流通大手からの本格受注を目指す。



紳士服売り場に設置された有機ELの棚照明
||千葉市・イオンモール幕張新都心(有機EL照明
実用化研究会提供)

千葉・イオンモール 棚照明と卓上スタンド

棚照明を取り付けたのは紳

士服のイージーオーダー売り場。縦7・4寸、横28・7寸の有機ELパネルを8枚使い、各段で生地を上から照らすようにした。ほかに、来店客が生地を手にとって比べる際に使うスタンドもテーブルに設置。以前は発光ダイオード(LED)照明を使っており、イオンの担当者からは「高級生地の繊細な織りや多様な色が判別しやすくなった」との評価を得たという。

化粧品コーナーには、同じサイズのパネル1枚に金属フレームを施し、脚、土台で立てるタイプのメイク用スタンド7台を納入。来店客が商品を試す際に使う。円形の鏡とセットにし、7ブランドすべてに1台ずつ置いた。天井の照明では顔に影ができるが、横から当てる優しい光が好評という。

研究会は米沢商工会議所に事務局を置く。今回は同商議所がイオン側に働き掛け、先月下旬に試験設置が実現。米沢市内の研究会メンバーのうち、ルミオテックがパネルを供給し、米沢小高工業が金属加工を担当した。タカハタ電気が製品化して小泉創芸が棚照明を施工。県産業技術振興機構(山形市)からアドバイスを受けた。研究会の和田宏代表は「イオン側と連携して買い物の反応や売り場担当者の評価を集め、仕様などの改善を図る。受注につながるよう有機ELの優位性を訴えていく」と話している。



化粧品コーナーのメイク用
スタンド